

◆◆ かやの木政策塾の活動を紹介します（その1） ◆◆

平成22年7月から活動を始めている 若手政策集団「かやの木政策塾」は、中津川市役所で”初めての取り組み”であり、若手を中心とした政策問題の勉強会です。係長級以下の職員443人からの公募に、24歳～48歳の66人が手を挙げ、職員の意識も変わってきています。

成瀬塾長（政策調整監）を中心に各部の企画統括主幹等がリーダーとなり、いくつかの提案の具体化に取り組んでいます。今回は、政策の企画・立案に市民の声を活かすため、起業家との懇談、民間企業の視察、他団体との連携などを積極的に行っている様子をお伝えします。今後は、年度末までに提案をまとめる予定でいます。



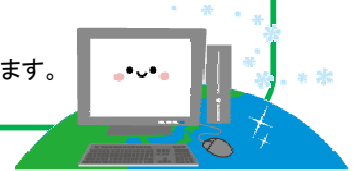
《ワンストップサービスの導入・日本一見やすいホームページを目指します》

■市民が最小限の時間と移動で手続きができるような窓口（公共施設のあり方と見直しチーム）

- ・例えば市役所市民課へ転入の手続きにいらっしゃった市民には、住民登録の後、その他の手続きのために関係課へ移動し、そのたびに書類を記入するなどの手間をお願いしているのが現状です。
- ・こうした窓口業務を市民の皆さんが利用しやすくと考えています。

■タイムリーな情報を発信します（ITを活用した行政機能づくりチーム）

- ・分かりやすいホームページ、市民の皆さんが知りたいタイムリーな情報を発信するホームページにします。



《ご当地グルメをつくりたい》

■中津川市のご当地グルメをつくりだせないか考えています（地域ブランドチーム）



「中津川市」そのものの知名度を高めて、地域としてのブランド力を高めたい。

- ・商工会議所の主催で3年間行われていた「創作なかつがわ料理コンテスト」を活用して「中津川市のご当地グルメをつくりだせないか。」と考えています。
- ・各地の成功事例を調べたり、商工会議所の方にもご協力をいただきながら、今後どのような展開ですすめていくかを検討しています。

←「創作なかつがわ料理コンテスト入賞作品図録集」（発行：中津川商工会議所）

《移住定住》 農業大学校と連携して、移住の促進を考えています

■農業大学校卒業生にぜひ中津川市に住んでもらい、中津川市の農業を元気にしていきたい（定住化支援策チーム）

- ・平成22年10月1日（金） 可児市の岐阜県農業大学校において、岐阜県農業大学校職員の方と懇談会を行いました。
- ・この懇談会において、新たな政策へのヒントもいくつかいただきました。「条件次第では農業に熱意のある若者を取り込む余地は十分ある」。行政も機動力、営業力が重要な時代と感じました。（リーダー談）



〔岐阜県農業大学校の様子〕



〔「EarthE」視察の様子〕

■「エコ住宅」を考える参考にします。（住宅供給チームと企業誘致〈雇用対策〉チーム）

- ・平成22年8月5日（木） 三菱電機㈱中津川製作所内「EarthE」を視察しました。
- ・EarthE／アースエ（明日へ）とは、空気・水・光の技術を用いた、環境配慮型商品の体験・体感型展示場で、設備設計や施工に役立つ情報を提供しています。
- ・今後の取り組みの中で今回の視察を活かしたいと考えています。（リーダー談）

■塾長コメント ～ お役所仕事から市役所の仕事へ・・・～

・お役所仕事という言葉は、杓子定規、融通が利かない、対応が遅いなどあまり良いイメージの言葉として使われていませんでした。少子高齢化が進む速度は思ったより速く、住民ニーズの多様化や社会情勢の変化はその流れに行政対応が遅れがちになり、市民の皆さんの不満や苦情などに現れてきているような気がします。今回66人の若い人たちが近未来の中津川について真剣に向き合ってくれることになりました。いろいろな人と会話し、調査し市民サービスの向上につながり、少しでも市民満足度が上がっていくことに期待しています。